

提言の基本的考え方 - ゼロメートル地帯の今後の高潮対策について -

米国ハリケーン カトリーナは、堤防整備において外力として想定していたカテゴリ-3を上回るカテゴリ-5（上陸時はカテゴリ-4）を記録。ニューオリンズ市内では、運河堤防が破堤し、死者1,200人を超す大災害。

【米国では】

メキシコ湾岸でこれまでもカテゴリ-5のハリケーン(カミール(1969年)、アンドルー(1994年)等)により、多大な被害が発生していたが、ニューオリンズ市内では計画外力のカテゴリ-3を見直さず。

【わが国では】

計画を超える高潮が発生し甚大な被害を被った場合は、その都度計画規模を高めて施設整備を実施、安全性を向上させてきた。

結果、3大湾では、伊勢湾台風以後、約半世紀の間、多大な人的被害をもたらすような高潮災害の発生がなく、高水準の安全性を前提とした生産・生活活動が広範囲に展開。

カトリーナによるニューオリンズ周辺での被害を様々な面から分析

- ・堤防等の施設の計画規模
- ・堤防等の施設の設計手法
- ・速やかな排水対策
- ・災害復旧
- ・ライフラインの確保
- ・住民の避難（避難の遅れ、避難所機能等）
- ・行政及び住民の防災意識（住まい方、浸水への備え等）
- ・防災広報 など

- ・伊勢湾台風後整備した施設は相当年数が経過し、耐震性も必要であり、当初の信頼性が損なわれているおそれ。
- ・施設整備には時間がかかるため、防災施設の整備途上で被災するおそれ。
- ・計画規模で整備が出来たとしても、それを超える自然の外力が発生するおそれ。
- ・社会経済情勢の変化により、高潮災害に対するより高い安全性への期待。

浸水しないための対策

万が一浸水しても被害を最小限にするための対策

浸水しないように万全を期するため、ハード・ソフト面の整備、管理を行う。

- ・防護施設の信頼性（天端高、老朽化状況等）を再点検
- ・堤防等の老朽化対策、耐震対策の推進
- ・水門等開口部の迅速な操作
- ・円滑な管理・水防活動に資する高潮情報の充実
- ・係留船舶の安全対策、コンテナ、放置艇等の漂流物対策の推進

・複合災害を想定した対策の検討
・現在の計画を上回る外力が発生した場合の被災形態の検証

住民のゼロメートル地帯に関する正しい認識のための情報提供
浸水区域を最小限にするための対策の実施

- ・排水機場の耐水化
- ・浸水区域最小限対策
- ・迅速な施設復旧の確保
- 浸水が想定される地域における対応
- ・浸水に強い街づくり
- ・地下施設への浸水の防止
- ・円滑な避難確保のための対策
- 避難対策に資する情報提供の充実
- ・高潮や複合災害に関する情報提供の充実